

第2回看護研究会

(看護補助者教育研修会)

令和6年8月20日(火)

ハイブリッド開催

(会場：岡山県医師会館)

〔午前〕講演

演題 『対人援助の基本 ～尊厳のある関わりとは～』

講師 川崎医療短期大学 医療介護福祉学科
教授・学科長 山田 順子 先生

〔午後〕講演

演題 『認知症を持つ人に寄り添うコツ』

講師 一般財団法人津山慈風会 津山中央病院 外来師長兼看護副部長
認知症看護認定看護師 小幡 陽子 氏

(一社) 岡山県病院協会

(注：類似した感想はまとめています。)

第2回看護研究会（看護補助者教育研修会）のアンケート集計（令和6年8月20日）

（ 48病院 117名 出席 ・ 104名 回答 ）

1. 講演『対人援助の基本 ～尊厳のある関わりとは～』を聞いて。

（講師：川崎医療短期大学 医療介護福祉学科 教授・学科長 山田 順子 先生）

A.

a. 大変勉強になった	75名	b. 勉強になった	29名
c. 勉強にならなかった	0名	d. 全く勉強にならなかった	0名

B. 講演内容について

a. 大変分かりやすかった	72名	b. 分かりやすかった	20名	c. 普通	6名
d. 少し難しかった	6名	e. とても難しかった	0名		

C. 感想があれば一言。

- ・ 楽しく勉強・学ぶことができた (2)
- ・ 介護に対する考え、姿勢が学べて良かった
- ・ 日々生活の中での体験から学びがあった
- ・ 知らないことをたくさん知れて、勉強になった
- ・ 大変勉強になった。また職場で活かしていこうと思った
- ・ 看護補助者として、とてもモチベーションが上がる講演だった
- ・ 介護の基本的な内容を詳しく知れたことがとても参考になった。今後に活かしていきたい
- ・ 身近な体験の話を交えての講演だったので分かりやすかった
- ・ 病棟でよくある問題ばかりで、日頃の業務に活かそう
- ・ 実際介護をしている中で対応に困るときがあったが、今回事例に挙がっていたので良かった
- ・ 仕事面ではもちろん、自分や家族のために研修で学んだことを役立てていきたいと思った
- ・ 3年前に受講させていただいたが、身につけていないこともあると感じた
- ・ 学生の頃学んだことをもう一度学び直したような気がする。介護が雑になっている気がしたので、もう一度振り返ってみたい
- ・ 長年勤めていると、工作中などで初心を忘れがちになっていたため、一から学べて良かった
- ・ 介護者主体の行動（対応）・声かけになっていたことに気づかされた
- ・ 業務中にどういう意識を持って行動するか、振り返りと目標ができた
- ・ 人は誰もが自分の価値基準で物事や人を見てしまいがちなので、ニュートラルな状態で見ようにしていきたいと思った
- ・ 患者さんとの関わり方や気持ちを理解していくようにしたいと思う
- ・ 看護師としての患者さんとの関わり方について学ぶことが沢山あった
- ・ ただ困っている人を世話するだけでなく、守る対象は命と生活で、これから仕事をしていく中での患者さんに対する接し方を学べたので良かった
- ・ 相手の気持ちを考えながら行っていこうと思った
- ・ 「相手の立場になって考える」今後も努力していきたいと思った
- ・ 相手の立場になり関わる、基本的なことだが改めて勉強になった
- ・ 相手の立場に立って考え、意識して行動・関わっていこうと思う
- ・ 無意識に否定的な言葉をかけたりしていたが、相手の立場になって考えたいと思った

- ・ グループワークでコミュニケーションが円滑になった
- ・ 話を聞くだけでなく、考えて書いたり実践したりして大変勉強になった
- ・ ペアになって実際に実践があり、分かりやすく体験できて良かった
- ・ 一人で参加したが、ペアになりコミュニケーションを取りながら実演をしていく作業がリラックスできて良かった。自分の職場で伝達発表があるが取り入れて発表する
- ・ グループワークなど、実際に体験しながらの研修で分かりやすかった。患者さんとコミュニケーションを取る上で大切だと思うことがたくさんあったのでしっかり生かしていきたい
- ・ グループワークがあり、実際に相手の立場を考えることで関わり方を改めて考える機会ができた
- ・ 各グループで話し合いをしたり意見を言ったりと、他の人の意見が聞けて良かった
- ・ 患者さんとの関わり方にコレという答えが見つからない時の方が多く難しいが、他の方の意見を聞けて良かった
- ・ 具体例で考えていく時、患者の背景や性格などの情報が少ないため、どう対応すべきかと考えるのが難しかった
- ・ 他の病院の助手さんと話ができるのは楽しかった！ ・ グループワークで楽しく過ごせた
- ・ グループワークでいろいろ分かったこともあった
- ・ グループワークで違う考えがあり、分かりやすかった
- ・ グループでの活動が勉強になった（いろいろな視点があり）
- ・ グループワークは楽しかった。文章を言葉以外で伝えるのは難しかった
- ・ グループワークはとても楽しそうだったが、リモートで少しわかりづらかった
- ・ Zoomでのグループワークが難しかった。個人としての立場、職場的な立場から事例を考えるのが面白かった ・ 200 mでのグループワークはむずかしい
- ・ 内容が盛りだくさんだった ・ 時間が足りなくて省いた所があったので、全部聞きたかった

2. 講演『認知症を持つ人に寄り添うコツ』を聞いて。

(講師：一般財団法人津山慈風会 津山中央病院 外来師長兼看護副部長/認知症看護認定看護師 小幡 陽子 氏)

A.

a. 大変勉強になった	80名	b. 勉強になった	23名
c. 勉強にならなかった	0名	d. 全く勉強にならなかった	0名

未記入1名

B. 講演内容について

a. 大変分かりやすかった	72名	b. 分かりやすかった	26名	c. 普通	4名
d. 少し難しかった	1名	e. とても難しかった	0名	未記入1名	

C. 感想があれば一言。

- ・ 勉強になった
- ・ 分かりやすかったので、業務に活かしたい
- ・ 分かりやすく、勉強になった・良かった (2)
- ・ ありがとうございます
- ・ とても良い講演だった。今日勉強したことをみんなにも伝えたい
- ・ とても丁寧に資料と一緒に説明して下さり、分かりやすかった
- ・ 今以上に認知症について知れてよかった。最後の動画が良かった
- ・ 再確認できてよかった。動画感動した
- ・ 動画があったのでイメージが付きやすかった
- ・ 仕事の中の日常で使える方法がたくさん学べたので、職場で共有していきたいと思う

- ・ あ〜と思うことがたくさんあった。仕事に役立つようにしたい
- ・ 引き込まれるような時間だった。反省することがたくさんある
- ・ 介護する上で、今後勉強したことをスタッフに伝え、実行していきたい
- ・ とてもわかりやすく講義していただきありがとうございました。自分が接する時、少しでも患者さんに安心してもらえるよう患者さんの気持ちになって接していこうと思う
- ・ 一呼吸置いて、患者さんの話を聞ける心の余裕を持ち接したいと思った
- ・ 世間話など楽しく会話することで、相手の話に頷くこと・耳を傾けることがケアになる、ということが大切だとよく分かった
- ・ 相手を否定せず、受け止めるということが実際にできるようにしていきたい
- ・ 患者さんや両親に対し、自分自身もう一度見つめ直す機会になった。また参加したいと思った
- ・ 知識を得たことで安心感を持って患者様に対応しやすくなれそう
- ・ 仕事をする上で悩んでいたことが解決できそうで、参加して良かった
- ・ 認知症について改めて学べた。ありがとうございました
- ・ 認知症のことについてよく分かった
- ・ 認知症の方との関わり、深いと思った
- ・ 認知症の人のことが更に勉強できて良かった
- ・ 認知症の基本的なことを確認できて良かった
- ・ 認知症の種類やその特徴について分かりやすかった
- ・ 認知症について再度考えさせられた。仕事に役立てたい。ありがとうございました
- ・ 日々認知症の方に接する機会があるので、具体的な接し方など明日から参考にしたい
- ・ 認知症とは・・・頭の病気。この基本、とても勉強になった
- ・ 認知症の主な症状が詳しく分かった。いろいろな方向から患者さんと関わってみようと思う
- ・ 認知症はゆっくりと進む→今まで大きく誤解していた。入院生活が長引くと急速に進むと思っていたので勉強になった
- ・ 認知症の人への接し方や言葉遣いについて学ぶことができた
- ・ 認知症の方にどう接したらよいか分からないときがあったので、とても勉強になった
- ・ 今まで認知症がある方への対応が難しくどうすれば良いのか分からなかったが、いろいろな認知症を持つ患者様がいて、自分達スタッフもそのことを理解しながら寄り添ってあげたいと思った
- ・ 認知症の方への対応が具体的に分かったので、研修を実践できるようになればいいと思った
- ・ 認知症を持つ方との関わり方、見ている世界を再度学ぶことができた。同じ目線、相手の気持ちに寄り添い接していこうと再認識した。温かい手のぬくもりなどを体で伝えることも日々の業務に取り入れ心掛けていきたい
- ・ 認知症を知った上で対応を考える必要が分かった。また、人として向き合うことに、認知症のあるなしは関係なく、大事なことは同じだと思った
- ・ 認知症という病気は難しいと思ったが、研修に参加して、相手に寄り添うということを知った
- ・ 年々と認知症の方が増え、コミュニケーションや寄り添う方法を勉強できて良かった
- ・ 寄り添う関わり方をしていきたい
- ・ 寄り添うコツを知ることができた
- ・ 寄り添うコツを学べたので、活かしていきたいと思う
- ・ 寄り添うコツは感情、感性等を大切にすることだと感じた
- ・ その人の立場に立ってどう寄り添うか、日々考えながら仕事をする
- ・ 否定しない、簡単なようで難しいが、再度意識して今後の仕事に反映したい
- ・ 無意識に、声かけしながら行動している部分があったことを反省した
- ・ 業務としてしかとらえていないので、寄り添えるような介護ができていないと反省した。少しでもその人の立場に立って考えられるよう業務をしていきたい

- ・ 接するときに、患者さんの気持ちを考えて寄り添うことが大切だと思った
- ・ 自分の関わり方を振り返り、視線を合わせることはできていなかったが、会話の中で「今」を伝えることはできていた。研修を通して、できていなかったことをやっていきたい
- ・ 実例と、年齢とともにできて当たり前ができなくなってくる認識と支え合える環境と、患者様への接し方など勉強になった
- ・ 認知症患者さんに寄り添う上で、実際にできていないこともあったので、一つひとつ丁寧にやりとりをしていきたいと思った
- ・ 利用者や患者さんへの感情はとても大切だが、職員の感情はどうかと思った
- ・ 認知症の方の目線になって考えることができた
- ・ 患者さん目線で考えることで新しい発見があった
- ・ 目線や手の持ち方、基本的なことだが気をつけていこうと思う
- ・ 認知症患者目線が分かった気がする。接するときに気をつけてみる
- ・ まずは目線を合わせて、業務的な接し方にならないよう人として接する、今から実行する
- ・ 目線を合わせることや、一つ一つの行動を理解してもらってから手助けをすることが大事だと改めて分かった
- ・ 認知症を持つ方が安心して生活できるような環境を整えていきたい
- ・ 認知症を持つ人が安心して生活できる環境や接し方・話し方を考えながらケアしていこうと思う
- ・ 認知症患者さんの環境を整えることが、患者さんの安楽につながることを理解できた。自分の関わり方を見直すきっかけになり、他のスタッフの対応を客観視する指標ができた
- ・ 安心に繋がる接し方を心掛けた。相手に伝わる手の持ち方、耳から入る声、目で見える表情
- ・ 患者さんの不安を少なくするには、接し方・話し方・環境作りなどが大切だと知れた
- ・ 認知症についての疾患だけでなく向き合い方を学び、見直さないといけないと考えさせられた
- ・ 認知症の患者さんの症状に合わせて寄り添った介護をしていこうと思った。講演ありがとうございました
- ・ 認知症を持つ人への寄り添い方の1つとしてスタッフの視線と表情、身振りや声が大切なことがよくわかった
- ・ 認知症を持つ人との寄り添い方として、患者さんが話すこと・訴えることを読み取る（理解する）ことが大切だと勉強できた
- ・ 様々な認知症症状があり、対応に迷うこともあるが、その人の目線で寄り添いたいと思った
- ・ 認知症だからといって何もできない訳ではない、という言葉にハッとさせられた
- ・ 患者さんのできることを奪ったら、できなくなると反省した
- ・ ケア時、ユマニチュードを用いて行っていこうと思う。気持ちにゆとりをもって関わっていきたい
- ・ ユマニチュードの技術とタクティールケアの技術の大切さを再認識した
- ・ どうすれば伝わるのか、勉強することができて良かった
- ・ 手の持ち方で相手に伝わるメッセージがあるということがわかった
- ・ 手の持ち方で相手に伝わるメッセージがあるという言葉に胸が痛くなった。視線は合わせていたけれど、なるほどな・・・と考えさせられた。気をつけたい
- ・ BPSD の背景にあることを考えようと思った
- ・ BPSD のことを知り、BPSD を直接やめるのではなく生活の質を高める介護をしていきたい
- ・ 自身の体験などからその頃のこと思い出し、あの頃は自分も一杯いっぱいだったことが思い出された
- ・ 自分自身の認知症予防にも今から取り組みたいと思った
- ・ 最後の「銀のさら」で泣いてしまった。初心を思い出した。ありがとうございました
- ・ ビデオで全てが完結した。ありがとうございました

3. 仕事をする上で困っていることや、今後勉強したいこと・聞きたいこと等希望する研修内容などがあればご記入ください。

【仕事をする上で困っていること】

- ・ 話しかけても毎回無視をされる。どのような接し方をすれば良いですか？
- ・ 認知症患者さんと会話する際にどういう話題をしようかと悩むことが時々ある
- ・ 家に帰りたくて出口を探される患者、廊下を徘徊される、対応に困ることがある
- ・ 依存タイプの人への接し方が難しい
- ・ 看護師が助手に頼りきりで困る（患者のことを理解していなかったりする）
- ・ 人員不足だなど思うことが多い。その中でいかにスムーズにできるかを考えている。日々の業務の中で尊厳のある関わりをし、寄り添えるように努力したい
- ・ スタッフの人数が少ないため、心と時間の余裕がない。患者さんに優しく接することができるよう、自分の心も健康でいたい
- ・ 忙しいとき、イライラしてしまい態度に出てしまう。気をつけていきたい
- ・ 男の人のおしめ交換が時に難しいことがある
- ・ 寝たきりの患者さんと接することも多く、そういった方のケアの方法やポジショニングが難しい

【今後勉強したいこと・聞きたいこと等】

- ・ チームワーク・コミュニケーションについて ・ 看護師との情報共有、連携について
- ・ 緊急時の介護士の対応や報告の仕方が知りたい
- ・ 看護師はどこまでの仕事を補助者に望んでいるのかの線引きが分からない
- ・ 接遇、コミュニケーション能力（コロナで直接関わる時間が短くなり難しさを感じている）
- ・ 患者さんに声を掛けるときの適切な“言葉”“話し方”を勉強したい
- ・ 接遇はなぜ必要なのか？利用者や患者さんに対して言葉遣いを気をつけようと言われるが、なぜ馴れ馴れしくや親しくしゃべってはいけないのか？です・ますのような堅い言葉で会話をしないといけないのか？
- ・ ユマニチュードについて詳しく知りたい ・ 患者による暴言行為、セクハラの対処法
- ・ 強迫性障害の方の症状が出ている時の声のかけ方や症状緩和法を知りたい
- ・ 認知症患者さんや困ったとき、どういう言い方をするか、どういう行動をとったらよいか
- ・ 知的・発達障害を併せ持つ方への関わり方（理解してもらうための方法。怒り時の対応・対処法）
- ・ 患者さんが何をしたら楽しんで作業ができるかや、手遊び例などを学んでいきたい
- ・ 声が出せない方との接し方。耳鼻科患者さんなど、喉を切開された方
- ・ ベッドからの離床、車椅子など。麻痺がある人のベッド離床や車椅子の乗せ方
- ・ 身体拘束、感染対策 ・ 口腔ケア ・ 患者さんの清拭やおしめの交換などのケア業務
- ・ 食事介助の研修 ・ 食事介助、洗髪・入浴、看護者にも患者さんにも安全な移乗
- ・ せん妄や被害妄想の患者様への対応の仕方が何かあれば
- ・ 体位変換時のクッションの正しい入れ方が困っている。正しいクッションの入れ方の勉強などしたい
- ・ 施設の認知症ケアは破滅を辿る一方だと思い病院に転職したが、ここでも拘束は減算になったり、厳しい現実ばかりだと思った。これ以上介護の現場で働くことがバカらしくならないように、きれいごとではない取り組みと対策を知りたいと思う
- ・ 介護福祉士など資格が取りやすい環境、取得できれば。今回のように院内での Zoom 研修だと参加しやすいので今後も希望したい

【その他】

- ・ 今日の内容を明日から実施しようと思いました

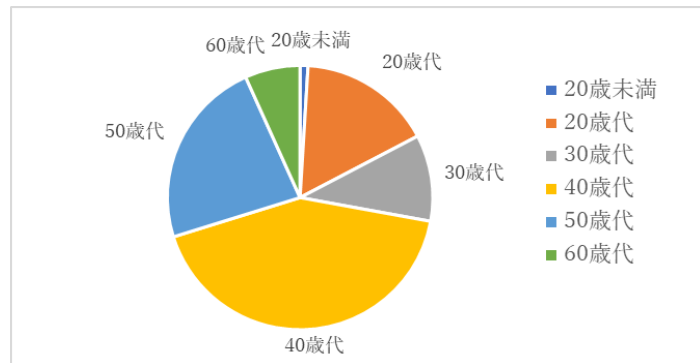
- ・ すぐ実践できそうな事があり、勉強になった
- ・ 認知症基本法、今回初めて知った。大変参考になった
- ・ まだまだ学ぶことが多く日々勉強。先輩や時には患者さんを通じて学びさせていただきたい

4. 今回の研究会に参加した動機はどれですか？

- a. 病院から参加を勧められた (9 4) 名
- b. 自分から積極的に出席した (7) 名
- c. その他 (3) 名 未記入 (0) 名
- ・ 親の高齢化と患者様に対する接し方の勉強になると思ったから
 - ・ 研修の話をもらい参加した
 - ・ 新人のため、知識を得られるので

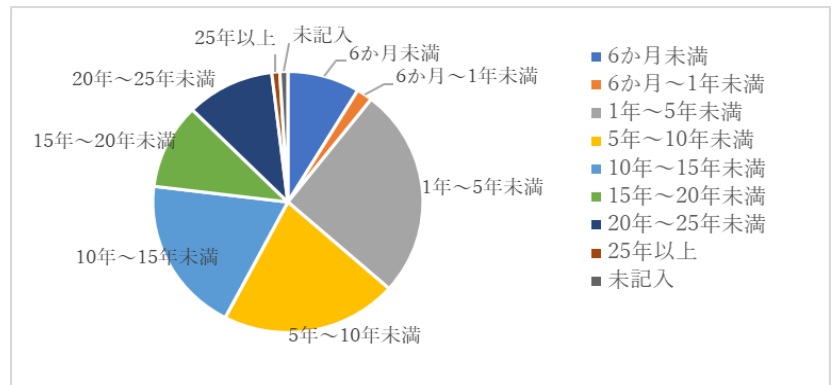
【年 齢】

20歳未満	(1)
20～29歳	(1 7)
30～39歳	(1 1)
40～49歳	(4 4)
50～59歳	(2 4)
60歳以上	(7)
未記入	(0)



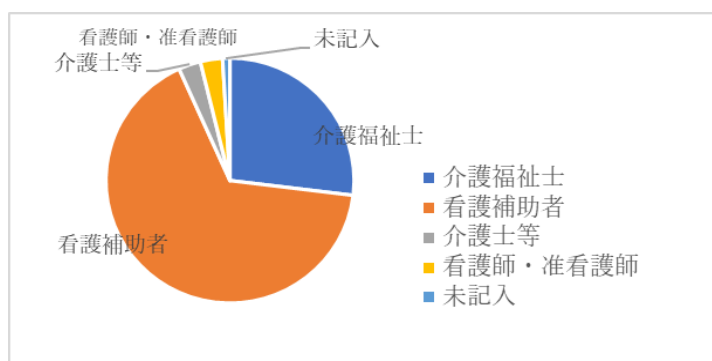
【勤務年数】

～6ヵ月未満	(9)
6ヵ月～1年未満	(2)
1年～5年未満	(2 7)
5年～10年未満	(2 2)
10年～15年未満	(2 0)
15年～20年未満	(1 1)
20年～25年未満	(1 1)
25年以上	(1)
未記入	(1)



【職 名】

看護補助者	(6 9)
介護福祉士	(2 8)
介護士・介護手	(3)
看護師	(2)
准看護師	(1)
未記入	(1)



【施 設】 病 院 (1 0 3)

その他施設 (1) (介護医療院(1))